

留學生新聞

令和4年(2022年)11月

1日號

第736号

定価一部330円(税込)
年間購読料 5400円(税込)



(毎月2回・1日、15日)

敬請關注 《留學生新聞》
微信公眾號



ID: liuexuoshengxinwen

政治經濟・社會文化・兩岸三地・留學生活・綜合情報

●発行所：メディアチャイナ株式会社 題字：張汀
●平成元年(1989)4月26日第三種郵便物認可 ●郵便振替口座：00150-2-388724 1988年12月創刊
〒130-0022 東京都墨田区江東橋 1-12-1-1003 TEL.03(6659)6212 FAX.03(6659)6213
●http://www.mediachina.co.jp ●E-mail: mc@mediachina.co.jp 版權所有・禁止転載

中日双語刊

将来のビジネスに必要な実務知識と生きた経営学が学べる

少人数教育による留学生サポートが充実！立正大学大学院経営学研究科

木村研究科長…当研究科ではビジネスマネジメント全般を幅広く学び、修了時にMBAの学位を取得できます。例えばマーケティングの専攻希望者も、マーケティングの知識だけでは実際に起業や経営はできないので、経営戦略、情報システム、会計学などを含め体系的に学びたいです。また現役の公認会計士や税理士によるビジネス実務の授業や、大学に隣接する地域の中小企業経営者などを招いた特別授業も行っており、学生の間で好評です。特に留学生の場合は、将来的に家業を引き継いだり、スモールビジネスでの起業を目指す傾向が強いので、中小企業経営者の経験が将来の方向性ともマッチしており、得るものが大きいでしょう。また本学の中国出身教員が中国ビジネスや中国企業に関する分析研究を行う授業もあり、留学生にとっては母国

将来、日中両国での活躍を目指す留学生にとって、特に有益な教育内容やカリキュラムを挙げてください。

木村研究科長…当研究科は経営学の大学院修士課程なので、卒業後にどのようなビジネスに携わりたいのかに関し、自分なりの明確な目標をもっている留学生を歓迎します。これまで入学した中国籍留学生は大別すると2つの傾向があり、一つは卒業後に日本と中国との間におけるビジネスを志向する人、もう一つは特定分野での起業や事業承継等を視野に入れている人で、いずれも本学で経営学を専攻することが将来的な成果に繋がります。最近卒業した留学生からは、日本の専門商社や対日ビジネスに携わる中国企業等で就職した人、あるいは中国国内でホテル事業を引き継いだ事例などが出ています。



立正大学大学院経営学研究科では毎年継続的に留学生を受入れています。研究科の特色なども踏まえた上で、どのような留学生に最も受験してほしいと考えていますか？

日本の高等教育機関で学ぶ外国人留学生の内、専攻分野別では社会科学分野が最も多く、中でも中国出身者の間では経営学の人気が強いとされる。特に最近大学院で学位を取得後、日本での会社設立や、中国に帰国して事業を行う希望者が増えていることも背景に、将来の創業とマネジメントに必要な専門知識を包括的に学ぶことができる大学院研究科のニーズが高まっている。立正大学大学院経営学研究科(東京都品川区)では、かねてより入学を希望する留学生に門戸を開き、充実したサポート体制の下、優秀な人材を輩出し続けてきた。新たな学習ニーズを見据えた教育指導体制や、留学生支援の現状などについて、木村浩・同大学院研究科長に話を聞いた。

木村浩・立正大学研究科長が語る 立正大学大学院経営学研究科の留学生サポート

木村研究科長…ここ数年は留学に至る過程でコロナ禍もあり、苦勞した方が多いことでしょう。それでも夢をあきらめず来日を果たした留学生の皆さんには、日本と母国との間で様々なビジネスに携わりたいという情熱があると思うので、今後の活躍に期待する面が大きいです。当研究科には日本のビジネスを深く探求できるプログラムが充実しており、最近オープンしたばかりの新校舎には院生研究室もでき、対面授業による活発なコミュニケーションが行われています。大学院の立地も交通至便な都心部にあり、日本の企業ビジネスを体感しやすい環境なので、ぜひとも入学先の選択肢として当研究科を考慮してほしいと思います。

これから大学院入学を目指す中国籍留学生向けに、メッセージをお願いします。

木村研究科長…私費留学生向けの授業料減免については大学院として1年次に30%を、また2年次は申請に基づき50%を減免する制度があり、2023年度も実施予定です。このほかに研究科独自の奨学金制度も設けています。また日本語サポート制度は、大学院留学生の修士論文作成などにあたり、教員が推薦する本学の学部生または大学院修士生(日本人学生)が日本語面で支援するシステムです。本学には国際交流センターを通じて留学生と日本人学生との交流プログラムもあり、アットホームな雰囲気の下、多面的な交流の機会が提供されています。

留学生に対してはさらに、授業料減免や日本語サポート制度など、充実した支援措置を行っています。来年度もこれらは継続されるのでしょうか？

木村研究科長…研究計画書は、絵に描いたように理想的なものを求めているわけではありません。実際に大学院で何を学びたいのかという熱意を、学生自身の言葉で表現してほしいのです。書かれている内容の論理性や日本語能力のレベル(試験の点数)も一定程度は必要ですが、それらが全てではありません。面接においても、日本語で志望動機をきちんと伝えられるか、教員とのコミュニケーションが円滑にできるかなどが、重要な評価の基準となるでしょう。

留学生が研究計画書や志望理由書を書く際の注意事項を挙げるとすれば、どういった点でしょうか？

木村研究科長…修士論文の執筆時には、基本的に一人の学生を一人の教員が指導できるように体制を整えています。これは密度の高いサポートによって、個々の学生に専門知識を深めてもらうためです。当研究科では、普段から「先生との距離感が近い」ことを魅力に感じる留学生が多いようです。教員にとっても、少人数教育を徹底することで個々の学生に目が行き届きやすくなり、入学段階から学生の研究希望とのマッチングを効果的に進めることができます。

最新のビジネス状況に接する好機ともなります。入学後の修士論文の作成に不安を感じている留学生も少なくありませんが、大学院としていかなるサポートを行っていますか？

立正大学大学院 経営学研究科

Master of Business Administration (MBA Course)

試験科目

コース区分	受験区分	試験項目
アカデミックコース	一般・留学生	専門科目・小論文・口頭試問・書類審査
	社会人	小論文・口頭試問・書類審査
ビジネス・ソリューションコース	社会人	小論文・口頭試問・書類審査

★日本国内の大学または大学院を卒業・修了していない場合は、「日本留学試験(EJU)日本語」2021年6月、11月、2022年6月、11月のいずれかの受験、または「日本語能力試験」(2020年12月、2021年7月、12月、2022年7月のいずれか)の合格が出願要件となります。

試験日程

試験日	出願期間
2022年12月3日(土)	2022年11月15日(火)～11月24日(木)(必着)
2023年2月11日(土・祝)	2023年1月12日(木)～1月25日(水)(必着)

☆受験に関するお問合せ先 E-mail: bus@ris.ac.jp (経営学研究科事務室)



【現役留學生が語る】大学院のキャンパスライフ

理想の学習環境で 幅広い経営学の専門知識を修得

●立正大学大学院 経営学研究科2年 鮑思宇さん



私は家庭の事情で、小学生の1時期を日本で過ごしたことがあります。当時は日本語があまりできずに悔しい思いをしたので、中国で大学を卒業したらもう一度日本に戻ることを希望していました。そして2019年10月に、日本語学校への入学が決まって、再び来日が叶ったのです。この間、日本語は中国でeラーニングにより学んでいたのですが、やはり語学を修得するには環境が最も大事だと痛感しました。先生と直接対面で交流する機会が得られてから、日本語も目に見えて上達できた実感しています。

大学に通う先輩にも状況を尋ねたところ、先生がとても優しく、学内は活気があり周囲の環境も理想的だと話してくれました。実際に入試で初めてキャンパスに足を運んだ時、最先端で真新しい施設と、交通アクセスの良さにとっても感銘を受けたのを覚えています。

そして入学後に、何より満足しているのは大学院の授業です。立正大学の研究科は少人数教育が基本なので、例えばゼミの時には、ほぼ個別指導に近い形で内容の濃い授業を受けられます。コロナ禍のため一時、全ての授業が遠隔授業となった時期

も、聞きたいことがあればいつでも先生にオンラインで相談ができ、とてもありがたかったです。

大学院での研究テーマについては、入学した頃は企業間のM&Aに興味を持っていましたが、様々な知識を学ぶ中で、日本企業のコーポレートガバナンスに注目するようになり、卒論のテーマにも選びました。日本における企業統治は、中国とは多くの点で異なっており、株主の役割や会計制度も全く別物です。特に、企業と経営者、株主、そして従業員との関係性を理解することは、日本企業のしくみや経済活動を学ぶ上で重要だと考えるようになりました。思い起こせば、入学した時に指導教員から、大学院では自分の研究テーマに関わらず、日本の会社制度や経済・金融の流れなど幅広い知識を学んでおいた方が良くとアドバイスされたことが、今、私の中で学ぶ指針として活かされています。

大学院の研究室では日本人学生とも親しくなり、日々楽しく交流できているので、益々充実度が高いです。2年生になった今年は、貿易商社への就職を目指し就活に励んでいます。培ってきた語学力も活かして、将来、中国と日本の懸け橋となれるよう頑張りたいです。

これから日本で進学を目指す後輩の皆さん。一番大切なのは、日本語のコミュニケーション力です。もしコミュニケーションに不安があるとするれば、原因は日本語力が不足しているか、あるいは相手の立場に立って話をする姿勢が足りないのか、のどちらかではないでしょうか。日本語を勉強することはもちろん大切ですが、さらに相手の話をじっくりと聞き、双方向で対話ができるよう努力してください。最初はいろいろな困難があると思いますが、あきらめずに毎日一歩ずつ進んでいけば、その蓄積は必ず皆さんにとって大きな力となるでしょう。

【立正大学大学院経営学研究科：入学試験と留学生活に関するQ&A】

Q：留学生入試はいつ行われますか？

A：本年度は2022年12月3日(土)と2023年2月11日(土・祝)の2回、実施します。それぞれの出願期間は12月入試が2022年11月15日(火)から11月24日(木)まで(必着)、2月入試が2023年1月12日(木)から1月25日(水)まで(同)です。所定の応募期限に遅れないよう気を付けてください。

Q：出願にあたって、「日本語試験」などの受験は必要ですか？

A：立正大学大学院経営学研究科では、2023年度外国人留学生入試の出願要件として、日本国内の大学または大学院を卒業・修了していない場合には、日本学生支援機構が行う「日本語試験(EJU)」の受験か、または日本国際教育支援協会が行う「日本語能力試験(JLPT)」の合格が必要です。指定の受験時期はEJUが2021年6月、11月、2022年6月、11月のいずれかで、JLPTは2020年12月、2021年7月、12月、2022年7月のいずれかです。該当者は大学院に出願する前に必ず受験しておくようにしてください。

Q：大学院の場所はどこにありますか？

A：経営学研究科は東京の中心である品川にキャンパスがあります。JR大崎駅・五反田駅、都営浅草線五反田駅、東急池上線大崎駅が徒歩圏内と抜群の交通アクセスなので、通学やアルバイトに便利です。またキャンパス周辺は静かで落ち着いた雰囲気、勉強に集中できる環境と言えます。

Q：開講の時間帯はどうなりますか？

A：基本的に平日は夜間、土曜日は昼夜で開講しています。社会人学生は仕事をしながら、また留学生はアルバイトや自主学習、日本語学習などと並行させて、日常のスケジュールを調整しつつ、充実したキャンパスライフを送っています。



Q：学内施設の利用環境について教えてください。

A：大学院生が自由に使える院生研究室が、新たに完成した新校舎内に設けられていますのでとても便利です。院生研究室には専用のPCとプリンタが配置され、専門図書や過去の修士論文なども揃っており、必要に応じて統計資料・論文を集め、複写機を随時利用することが可能です。

Q：入学後、日本語を書くことに自信がないのですが、サポートの仕組みはありますか？

A：指導教員が日常的にサポートするだけでなく、教員が推薦する日本人の学部生または大学院修士生が、留学生の全般的な日本語支援を行う制度があり、好評です。学生と教員が少人数教育の下で共に学びながら、各人の現状や要望を考慮しつつ進めていきますので、心配は要りません。安心してください。

Q：外国籍の社会人学生が受験するにはどうすれば良いですか？

A：出願時に会社、官庁、教育機関、研究機関等に在職中で、出願時に通算2年以上の在職経験があり、2023年(令和5年)4月1日時点で大学卒業後3年以上を経過している場合には、留学生入試とは別に、「小論文(経営・ビジネスに関するテーマ)」を試験科目として実施する社会人入試を受験することが可能です。また多忙なビジネスマン向けには、研究成果報告書の提出で修士号を取得できる「ビジネス・ソリューションコース」もあります。詳細はお問い合わせ下さい。

Q：卒業した留学生の進路状況を教えてください。

A：例年、日本国内の著名企業や、留学生の出身国に進出している日系大手及び現地企業などに就職者・内定者が出ており、経営学研究科における進路状況は好調です。留学生の間では最近、会計関連資格の取得を目指して意欲的に学んでいる人も増えています。国内外での起業や事業承継を含め、多様な進路が想定されるでしょう。

★立正大学大学院経営学研究科の受験に関する相談・連絡先

TEL：03-3492-1031 (経営学研究科事務室)
E-mail: bus@ris.ac.jp